

# 水循環から見る山崎川

スタート(地下鉄自由が丘駅)

なごやのまちにも、なごやの森にも、雨が降る...この雨は地面にしみ込み、一部は川底からも湧き出す。山崎川のまわりで、水と人、生き物たちとの関わりを、ちょっと歩いてのぞいてみませんか？

「水循環から見る山崎川」は、なごや歴史探検アプリでもご紹介しています。アプリのダウンロードはこちらから↓「なごや歴史探検アプリ」

<http://geoalpha.jp/nagoya/>



# 水循環から見る山崎川 各ポイントの紹介

	地点	写真	説明文		地点	写真	説明文
1	猫ヶ洞池		尾張徳川家二代目藩主徳川光友の命令で農業用のため池として作られました。このため池には、雨水と湧き水の他、現在では東山公園内の上池（ポート池）からの水が新池を経由して流入しています。雨天時に一定水量を越えると千種台川へ放流されます。	6	山崎川の湧き水		石川大橋の上流部左岸、階段を下りた場所から川底をのぞいてみると、こぼこぼと湧き出る湧き水を見ることができる場合があります（6月～10月頃）。左岸（東側）の丘陵地帯に降った雨が、地下にしみこんで地下水となったものが湧き出していると考えられています。近くには、この湧き水と山崎川の鮎のことを紹介した看板が立てられています。
2	鏡ヶ池		名古屋大学構内にある池で、山崎川の水源のひとつです。昔の航空写真を見ると、実は名古屋大学ができた当時からあったことがわかります。	7	水質環境目標値 市民モニタリング 看板		名古屋市では、平成17年（2005年）度から、市民モニターにご協力を頂き、水質環境目標値（名古屋市が独自で定めた目標値）の「親しみやすい指標」について調査をしていただいています。詳しくは看板をご覧ください。
3	暗渠		猫ヶ洞池から田代本通4丁目付近までの山崎川は、一部暗渠（道路の下を川が通っている状態）になっています。以前はこのあたりでも川筋を見ることが出来ました。時代の流れの中で、山崎川の姿も様々に変貌してきたことがわかります。	8	瑞穂公園南ひろば		草木がいつまでも美しく、安心安全な公園環境を目指しています。土の下に、大きさをそろえた石を敷き詰め、石のすき間に雨水を貯留します。雨水が地中へしみこみやすくなる排水板を設置して、貯留した雨水を浸透させます。
4	地下鉄川名駅の 湧き水		地下鉄川名駅のトンネル内から湧き出しており、広路橋の下から山崎川に放流されています。川名公園の南側では、この湧き水を活用し、保水性の高い舗装へと流すことで、路面を冷やす実証実験を行っています。	9	瑞穂公園 ラグビー場雨花壇		地下水が重要な水源となっている「山崎川」沿いにある瑞穂公園ラグビー場エントランスに、雨水貯留浸透の取り組みを進めるために「雨花壇」を整備しました。ラグビー場エントランスの屋根の水が花壇に流れるように雨どいを設置しています。花壇の土の下には、碎石層をつくり、隙間に雨水を貯留しながら、ゆっくりと地面に浸透させています。このように雨水を利用した花壇を『雨花壇』と呼んでいます。花壇の植栽は生物多様性に配慮した緑化になっています。また、『雨花壇』をご自宅でも整備できるように案内看板も設置しています。
5	隼人池		江戸時代、尾張藩家老で犬山城主の成瀬隼人正正虎が、藤成新田の農業用かんがいのために設けたといわれています。当時は、壇溪橋のあたりで寛（かけい）によって山崎川を横断し、新田に水が送られていました。	10	あゆちの水（伝承地）		ここは『万葉集』巻十三に「小治田(おわりだ)の年魚道(あゆち)の水を間(ひま)無くぞ人は汲むとふ 時じくぞ人は飲むとふ 汲む人の間(ひま)なきがごと 飲む人の 時じきがごと 吾妹子(わぎもこ)にわが恋ふらくは やむ時もなし」と詠まれた尾張名水の一つ、「小治田の年魚道の水」の所在地であるといわれています。

健全な水循環の回復について(名古屋市公式ウェブサイト)

<https://www.city.nagoya.jp/shisei/keikaku/1008387/1008424/1008768/index.html>

水質環境目標値市民モニタリング(名古屋市公式ウェブサイト)

<https://www.city.nagoya.jp/kurashi/kankyuu/1012555/1012556/1012557/index.html>



山崎川での取り組み(名古屋市公式ウェブサイト)

山崎川の水循環について、ガイドマップや動画でご紹介をしています。  
<https://www.city.nagoya.jp/shisei/keikaku/1008387/1008424/1008768/1008771.html>

